

## ② 高山祭の屋台（高山祭屋台の修理・製作技術の保護）

### ア) 高山祭の屋台とは

高山祭というと、春の山王祭と秋の八幡祭を言う。春祭は、高山市城山に鎮座する日枝神社の例祭で、安川通りを境にして南側が祭礼の区域、現在屋台は12基ある。また、秋祭は、高山市桜町に鎮座する桜山八幡宮の例祭で、安川通りを境にして北側が祭礼の区域、屋台は11基ある。

屋台の古記録を見ると、「享保元年（1716）、山王祭り（春）と八幡祭り（秋）に、代官所の前で行列を披露し」とあり、また、享保3年の記録には「高山八幡祭礼行列」というのがある。その後、江戸では享保6年に屋台が厳しい儉約令によって禁止され、なくなってしまったが、高山では残り続けた。

屋台を飾る織物は、江戸時代、京都から購入しているため、屋台の祖形は京都方面から伝わったと考えられていた。しかし、屋台の伸縮構造、幕府直轄地時代の江戸文化直接移入、屋台を曳き出すときに「ヤタイ、ヤタイ」と言わずに、江戸ことばで「ヤティ、ヤティ」と言うことなどから、江戸形を祖形としていると考えられている。この、屋根が伸縮する機構は、江戸城の城門をくぐるときに使われた江戸形の屋台古形式を受け入れているもので、名古屋形や他地区のダシには類例が見られない。



秋祭、豊明台。屋台巡行。



春祭、麒麟台。曳き揃えの場所へ行くところ。

### イ) 屋台の構造

江戸時代の屋台は、材木・金貸し・酒造・流通関係などで富を蓄えた高山の豪商に支えられ、東西文化をふんだんに吸収していっそう華麗になる。それにこたえる大工、漆塗職人、彫刻師がそれを支えている。屋台は、懸装品が多くなり美しくなるにつれ、その重量も増えていった。乱暴には扱えなくなり、戻し車という五番目の車輪が考案されている。通常、一つの屋台には4つの車があるが、曲り角にさしかかると、90度向きの違うこの戻し車を下へ降ろして重い屋台を浮かせ、三輪になって回転する。これは全国に類例がない回転構造であろう。車の型式は、御所車、大板車があり、大板車は外周を鉄帯で締める「輪締め」と、斜め、又は直線にカスガイを打ち並べる「カスガイ」の2種類を持つ。

全体構造は、上、中、下段の三段からなり、上段は中段の下底まで四本柱が下がり、シャチ巻という巻き上げ装置で、屋根と四本柱からな

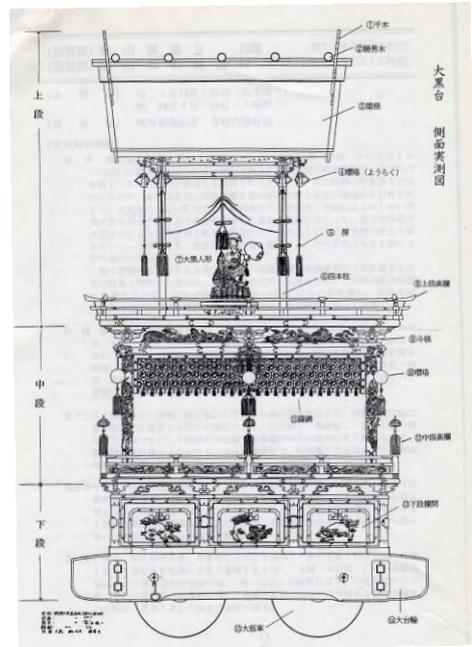


布袋台

る上段を引っ張り上げる。構造体は全体的にしなやかに、曳行のときにユラユラとしなやかに小さく揺れて振動を吸収する。



向きを変えるための戻し車（小さい車）



屋台構造図

・彫刻

屋台の彫刻は、文化文政頃は取り付けられていなかった。天保8年に立川和四郎（長野県諏訪）が五台山に彫刻をつけ、以後高山の職人により彫刻の全盛期を迎える。

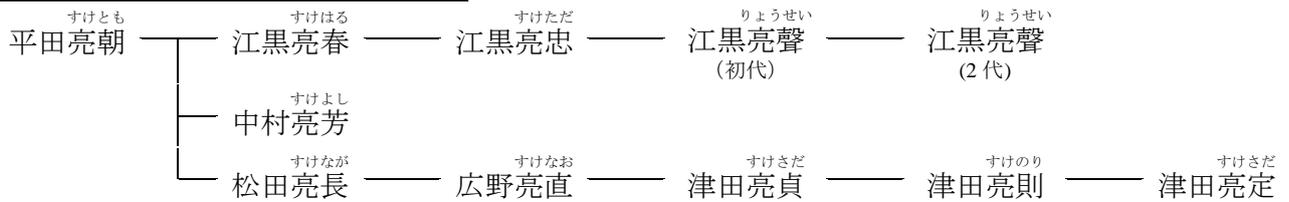


名工 江黒尚古の双龍彫刻



名工 谷口与鹿のくりぬき彫刻

すけ  
亮派の系統に属する一刀彫作家



宮大工系



## ウ) 組内の宝

各屋台組には、それぞれ屋台について非常に熱心な人が何人かいる。商売もほったらかしで、妻子も仕事も忘れて屋台のことに熱中し、屋台が第一の人たちである。祭りのときに、ほかの組の屋台に少しでもケチをつけたり、差し出がましいことを言ったりすると、こうした屋台好き同士でけんかとなってしまう。屋台組というのは、区域が決まっていて、その組内に入れば屋台組の権利が得られるが、いったん組の外へ出ると、どんな功労者でも屋台に乗ったり、曳いたりする権利を失うことになる。屋台組では、自分の組の屋台が一番いいと自慢しあい、「オゾクタイ（立派でない、だめな意）屋台」と笑われることが何よりも腹立たしいことである。



組内による屋台やわい(準備)



五台山の組内



夜祭りが済んでからの宴

## エ) 高山祭屋台修理の歴史

屋台の寿命は百回という。年一回の祭礼は二日間行われるので、年数にすると五十年ということになる。構造全体の大修理は、概ね五十年ごとを目安としており、それを超えた場合はどこかおかしいところをダマシダマシ曳行することになるのである。それは、各屋台組にとって極めてさびしいことであり、プライドが許さないことでもある。

高山祭の文献上の初見は元禄5年(1692)、四十年前の山王祭について記している。また、屋台は、享保3年(1718)に曳かれた記録があり、三百年以上前から屋台が既にあったことが知られる。当初の形は赤坂山王、神田明神祭を模したもので文献に姿の記載がないため形態はわからない。(第Ⅰ期)

その後、文化年間の形態がわかる古い絵巻が存在する。それは春祭の絵巻で、文化8・9年頃の年代が与えられ、彫刻が取り付けられる前の、第Ⅱ期である高山祭屋台形態がよくわかる。

第Ⅱ期の後、屋台は第Ⅲ期大改造期に入り、

## &lt;文化年間絵巻、高山祭(春祭)&gt;



神楽台



三番曳